

スピードスケート・全日本距離別選手権

MSで土屋V、小川3位



全日本距離別スピードスケート選手権(10月24〜26日、長野市オリンピック記念アリーナ)の男子スタートレース(MS)で土屋良輔(経営2)が優勝し、小川翔也(文2・池田高)が3位となった。今年度から新種目に採用されたMSは選手が一斉にスタートし、16周を滑走。3回の中間スプリント(4、8、12周)と最終スプリントの順位に応じてポイントが得られ、合計ポイントで競う。優勝した土屋は、8分33秒951のトップタイムでゴール。中間スプリントでも2、1、1位と順調にポイントを得た。「ルールが複雑な競技なので、事前に作戦を立てることが重要だった」と、勝因を語った。また、小川は5000メートルでも5位(6分44秒20)に入賞。この結果、土屋がMSで、小川が5000メートルでワールドカップ競技会の日本代表選手に選出された。土屋は前半戦に、小川は第1戦(帯広大会)に参戦する。(岡野希春・経済2)

準硬式野球・東都大学秋季リーグ戦

勝ち点4で3位に

東都大学準硬式野球秋季リーグ戦(8月30日〜10月29日、上柚木公園野球場ほか)で専大は8勝4敗の勝ち点4で3位となった。個人ではエースの高橋陽一(経営4・静岡商高)が大学野球最後のシーズンで、東都を代表する投手へと成長。6勝2敗で、ベストナインと最多勝のタイトルを受賞した。

1勝1敗で迎えた強豪中大との第3戦。次期諦めない野球を象徴するゲームとなった。エースの藤後彰太(経営2・県立岐阜商高)と高橋が力投。金子翔馬(法大)が決勝打を放つ。岩越駿介主将(商4・新潟明訓高)が決勝打を放つ。中大から6年ぶりの勝ち点をあげた。また最終戦の国士大第3戦は、5点差を追い上げ、延長10回で勝ち越し、有終の美を飾った。(齊藤麻利奈・経営2)



▲ 2冠を獲得した高橋

アーチェリー・全日本学生フィールド選手権

女子・織田が準優勝 男子・大川3位入賞

10月17日から19日まで、広島県廿日市市の佐伯国際アーチェリーランドで全日本学生フィールドアーチェリー選手権が行われ、女子は織田真理子(文1・大宮開成高)が準優勝、男子は大川輝晃(経営2・大宮開成高)が3位に入賞した。「予選ではリラックスして自分の力を発揮できた」と語る織田も、さすがに決勝戦では「緊張してしまい、自分のプレースタイルができていなかった。もっと試合経験を積んで大事な場面でも力を発揮できるようにになりたい」とコメント。また、「部員みんなの声援のおかげで初の入賞を果たし、達成感とともに驚きを感じている」と話した。(鷹野未佳・経営2)



▲ 入賞した大川(左)と織田

バスケットボール・関東大学女子リーグ

昨年上回る4位

関東大学女子バスケットボールリーグ戦(8月30日〜10月13日、代々木第二体育館ほか)が行われ、昨年より順位を1つ上げ、4位で終了した。拓大との開幕戦で白星スタートを切るも順調に勝ち点を重ね、強豪・白鷗大から1勝を奪い勢いに乗る。しかし、東京医療保健大に連敗し、最終筑波大戦もリードを守れず勝利を逃すなど、課題の残る結果となった。高田渚主将(経営4・福島西高)は、「優勝を目指していたので悔しい。まだまだ未完成のチームなので伸びるも伸びないも自分たち次第。11月24日開幕の全日本大学選手権は優勝を目指して頑張るのみ」と意気込みを語った。また男子の関東大学バスケットボールリーグ戦(9月6日〜11月2日、



▲ 敵陣に切り込む高田主将

男女とも健闘

全日本学生ローラースケート選手権が10月10日から12日まで、長野県の千曲川リバーフロントスポーツガーデンで行われ、専大は男女ともにスピード部門で優勝した。ホッケー部門は、男子が3位と健闘。2部門総合は男子が2位、女子が3位だった。個人では井上直樹(人間科学4・釧路湖陵高)が敢闘賞を受賞した。女子3000円で優勝した北村祐香里(経営2・釧路湖陵高)は「スピード部門だけでなく、ホッケー部門でも結果を出すために、チーム全員で考へながら練習していった」と、全日本大学総合卓球選手権(個人の部)が愛知県体育館で行われ、鈴木が女子単車でベスト8



▶ 笑顔の部員たち

FW・仲川がFマリノスへ

サッカー部のFW仲川輝人(商4・日体荏原高)の写真のJ1横浜F・マリノスへの入団が内定した。仲川は1年次生から公式戦に出場し、関東大学リーグ戦歴代2位となる通算45ゴールを挙げると、リーグ戦3連覇に大きく貢献。大学ナンバワンアタッカーの呼び声も高く、卒業後の進路が注目されていた。今季も14試合で7ゴールと活躍を見せていたが、第18節の駒大戦で膝の靭帯を切る大けがを負い、現在は療養中。「治療・リハビリに全力で取り組み、一日でも早くピッチに戻って来ますので、応援よろしくお願ひします」とクラブを通じてコメントを発表した。(阿部秀祐・文2)撮影・村橋



200メートル平泳部が8位

水泳・日本選手権 10月28、29の両日、FINAワールドカップ東京大会兼日本選手権(25日〜29日)が東京新(1分8秒30)。2日目の200メートルは予選10位で終え、日本選手権決勝に進出した。「予選のタイムでは不安だったが、決勝に残れてよかった。できれば、ワールドカップ決勝(予選上位8人)に残りたい」と語った。(安藤貴大・商1)

鈴木が女子単車でベスト8

10月23日から26日まで、全日本大学総合卓球選手権(個人の部)が愛知県体育館で行われ、鈴木が女子単車でベスト8



▲ 健闘した斉藤

「箱根」逃す

第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(10月18日、国営昭和記念公園)は17位となり、本戦への出場を逃した。伊藤国光監督は「敗因は一人一人が責任をもちて走れなかったこと。それがこれからの課題になる」と試合を振り返った。吉良充人主将(経営4・佐久長聖高)は「背中を見せるというよりは声をかけてチームを引っ張ってきたが結果を残せなかった」と話した。なお個人26位の斉藤翔太(商4・一関学院高)が、関東学生連合チームに選出された。(千葉ますみ・商1)撮影・伊東

7度目の防衛

WBC(世界ボクシング評議会)バンタム級チャンピオンの山中慎介(平17商)が7度目の防衛に成功した。防衛戦(10月22日、代々木第二体育館)は同級1位のスリヤン・ソー・リンビサイ(タイ)と対戦。後半に計3度のダウンを奪い、3-0で判定勝ち。日本記録に並ぶ世界戦の6連続KO防衛とはならなかったが、圧倒的な強さを見せた。